

1. 使いやすい「法人経営診断システム」(技術)			
[要約] 経営診断システムは、従来の経営分析に加えて、税理士団体の発刊する「TKC経営指標」との比較が可能である。また、投資計画や売上予測ができるとともに、現在の経営状態を点数化することで、経営目標に対する到達状況の把握も可能にした。			
研究室名	経営研究室	連絡先	(0869) 55-0546 (内線281)

[背景・ねらい]

現在、法人経営の診断が簡単にできるシステムがない。また、岡山県下の普及員のアンケートからは、経営診断の指導において「設備投資の経済分析」や「生産性及び収益性の分析」の難しさが指摘されている。そこで、普及員が苦勞している分析項目も容易に診断できるシステムを作成する。

[成果の内容・特徴]

1. 本システムは、VBA(Visual Basic for Applications)を用いて、Microsoft Excel上で動作する対話式の財務分析システムである。そのため、誰にでも簡単に農業経営の分析や診断が可能である。
2. 本システムは、基本入力と分析入力から構成される。基本入力では、財務諸表(貸借対照表、損益計算書、製造原価明細書)のデータを入力すれば、成長性・収益性・採算性・安全性・生産性についての合計102の分析指標によって診断できる(図1)。
3. 分析入力では、普及員からの要望が高く、他のソフトにあまり付加されていない投資分析や損益分岐点がシミュレーションできるシステムを追加した。投資分析では現金利益、回収可能投資額、回収期間の3項目の分析が、損益分岐点のシミュレーションでは予定利益、必要売上高、価格変動時の損益分岐点、月商倍率による借入限度額、投資後の損益分岐点の5項目のシミュレーションが、それぞれ可能である。
4. 税理士団体の発刊する最も信頼性の高い「TKC経営指標」との比較を可能にしたため、全国レベルの比較診断が可能である。
5. 分析指標の内容が十分理解できない場合でも、経営主が目標とする経営内容を設定すれば、現在の経営状態が点数によって表示され、経営バランスの総合評価や目標への到達状況の把握が可能である(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本システムは、財務諸表があれば一般の家族経営の診断にも利用できる。
2. 本システムでの経営目標に対する到達状況の点数は、目標設定の仕方によって変わる。そのため、より実態に近い評価を必要とする場合には、対象とする経営形態や経営の発展段階、及び経営主の意向にも十分留意しながら設定する必要がある。
3. 「TKC経営指標」には、作目ごとの経営指標値は用意されているが、品目ごとの指標値がない。そのため、品目ごとの全国レベルの比較診断はできない。

[具体的データ]

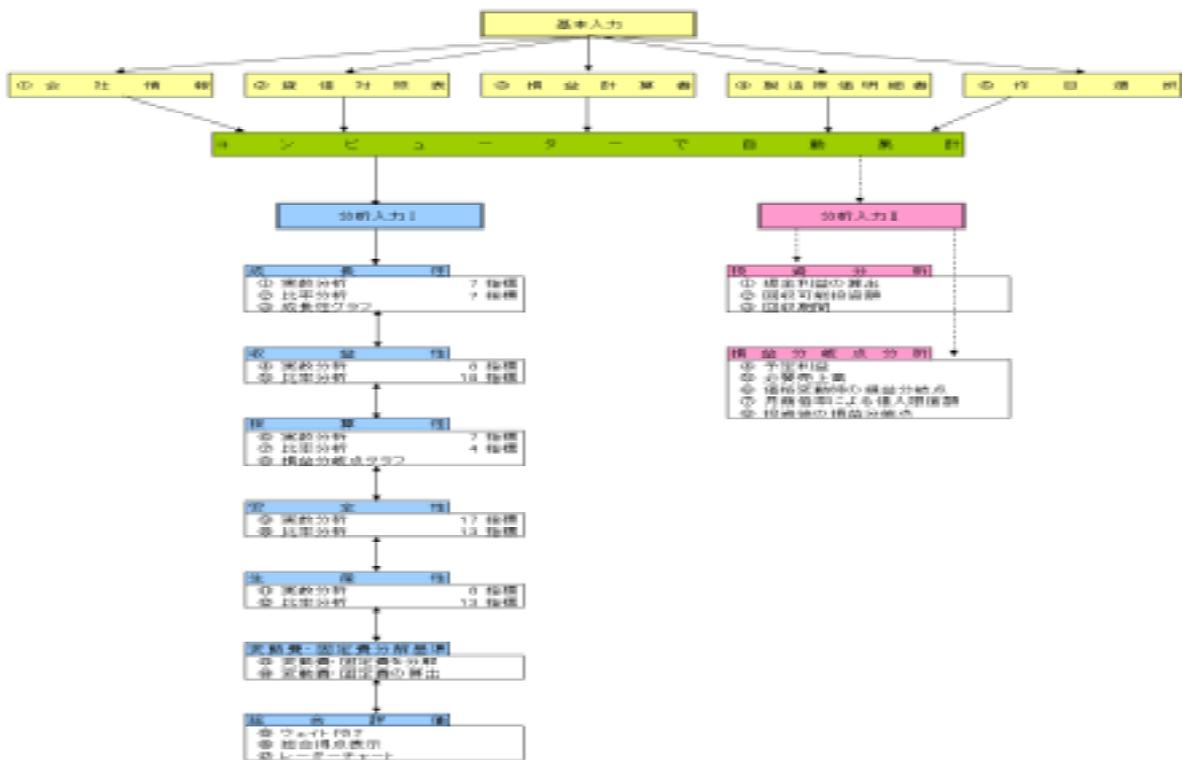


図1 システムの構成図

【総合評価の手順】

1. ウェイト付け
各指標が100%になるようにウェイト付けしてください

指標	ウェイト
1. 成長性分析	20%
2. 収益性分析	20%
3. 流動性分析	20%
4. 安定性分析	20%
5. 生産性分析	20%
合計	100%

2. 得点算出
得点の基準となる数値を入力し、目標ボタンを押してください

指標	単位	得点		
		1	2	3
成長性	成長率(前期対前年%)	30%	15%	10%
収益性	営業利益率(%)	8%	12%	15%
流動性	営業資金比率(%)	15%	20%	10%
安定性	自己資本比率(%)	10%	20%	10%
生産性	1人当たり付加価値額(千円)	2,500	3,000	1,000

3. 得点算出

	1998		1999		2000		
	実績	得点	実績	得点	実績	得点	
成長性	118.0%	1	100.0%	5	200.00%	5	
収益性	8.7%	2	9.7%	3	6.5%	5	
流動性	-11.5%	1	14.0%	3	25.7%	5	
安定性	35.7%	5	9.5%	1	11.7%	2	
生産性	1人当たり付加価値額	2,703	4	14,091	4	26,474	5

4. 総合評価表

	ウェイト(%)	得点(点)	評価得点(ウェイト)
1. 成長性分析	20%	5	10
2. 収益性分析	20%	5	10
3. 流動性分析	20%	5	10
4. 安定性分析	20%	2	4
5. 生産性分析	20%	5	10
合計			44

図2 総合評価の画面

[その他]

試験研究課題・事業名：経営体育成に対応した経営計画作成支援ソフトウェアの開発
 予算区分：県単
 研究期間：平成12～平成14年度
 関係情報等：なし